

評価項目		4点満点中
1	子ども一人ひとりの人格を尊重するかかわり	3.31
1	登園時、保護者からなかなか離れられない子どもに対しては、子どもが好きな遊びに誘うなどして気持ちを切り替えられるようにしている	3.37
2	子どもが描いた作品を否定するのではなく、子どもの自由な発想を認めるかかわりをしている	3.63
3	排泄の失敗に対し、子どもの羞恥心や傷ついた気持ちに配慮し、トイレ等の人目につかない場所に対応している	3.26
4	自分の感覚で排泄を知らせることができる子どもに対しては、子どもの行きたいタイミングでトイレに行かせるようにしている	3.32
5	子どもが友だちをたたく等、良くないことをした際、必要以上に責めないようにしている	3.26
6	子どもが保育者に話しかけた際には、できるだけ耳を傾け、すぐに対応できない状況でも、後から話しかかったことを聞くようにしている	3.32
7	子どもに対し、他者と比較したり否定的な声掛けをしないようにしている	3.26
8	食事の際には子どもが好む順番で食べられるように配膳などの配慮をし、食べる意欲を育む環境づくりに努めている	3
9	降園時、日中の様子を保護者に伝える際には、子どもの自尊心を傷つけないよう保護者が気まずい思いをしないように配慮をしている	3.28
10	子ども同士のトラブルが起きた際、保育者の一方的な考えで判断をするのではなく、双方の言い分を聞くようにしている	3.37
2	子どもの意見を尊重するかかわり・肯定的な言葉がけ	3.18
1	言葉がけを聞かない子どもに対しても、「〇〇しないなら〇〇できない」など、行動を強要するような声掛けはしないようにしている	3
2	昼食時、ごはんをこぼした子どもをほかの子どもが大勢いる前での指摘せず、声掛けはこぼした子どもにこっそり行っている	3
3	「あなたのせいで〇〇できない」など、自分の仕事を優先して考えるのではなく、子どもの気持ちやその日の状況に配慮したかかわりをしている	3.47
4	子どもの発達や個々の状況に応じて、無理に寝ることは強要せずに、身体を休めることの大切さも伝え、子どもが納得して行動できるような言葉がけをしている	3.26
5	怒鳴るなど、子どもに恐怖心を与えて保育者の指示に従わせるのではなく、子どもが自ら行動できるような言葉がけを心がけている	3.16
3	子どもの人権に配慮したかかわり	3.49
1	子どもの人数チェックをする際は、頭をはたきように数えたりせず、一人ひとりの顔を見ながら丁寧にしかかわるようにしている	3.42
2	子どもの行動を促す際に、腕を引っ張ったりして急かすのではなく、丁寧な言葉がけで、子どもが自ら行動できるようにしている	3.32
3	子どもを注意する際には、叩いたり暴力的な行為で従わせるのではなく、言葉でしっかりと説明するようにしている	3.47
4	午睡時、なかなか眠らない子どもに対して強引に押さえつけたり強く布団を叩いたりせず、そっと手を添えるなど子どもが安心できるかかわりをしている	3.63
5	保育者の言うことを聞かない子どもに対して、廊下に立たせるなど罰を与えるのではなく、具体的に分かりやすい言葉がけを行っている	3.63
4	一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮したかかわり	3.22
1	降園時、お迎えが遅くなる子どもに対して、子どもの気持ちに寄り添った、温かい言葉がけを行っている。（「大丈夫だよ、先生と一緒に待っていようね」等）	3.22
2	子どもや家庭の置かれている現状はさまざまということを理解し、保護者を否定するようなことは、子どもに対して伝えないようにしている	3.37
3	一人ひとりの保護者の状況をふまえ、保護者に対しても否定的な言葉がけはせず、保護者の養育力の向上につながるようなかかわりを心がけている	3.18
4	子どもたちの家庭の経済状況や環境の違いを理解し、子どもの気持ちに配慮した問いかけを心がけている	3.11
5	平等なかかわり	3.44
1	特定の子どものだけに挨拶をするのではなく、どの子どもに対しても、一人ひとり顔をみて挨拶している	3.58
2	「男の子だから」「女の子だから」と性別を理由に注意をしないようにしている	3.37
3	昼食時、保育者の感覚で配膳の量を決めずに、「少なくしてほしい」など自分の意見を言えるよう、「今日の給食は食べられそうかな？」と声掛けをしている	3.33
4	いつも同じ子どものそばにつくなど、特定の子どものばかりを極端にひいきせず、平等に対応している	3.47
1	子ども一人ひとりの人格を尊重するかかわり	3.31
1	登園時、保護者からなかなか離れられない子どもに対しては、子どもが好きな遊びに誘うなどして気持ちを切り替えられるようにしている	3.37
2	子どもが描いた作品を否定するのではなく、子どもの自由な発想を認めるかかわりをしている	3.63
3	排泄の失敗に対し、子どもの羞恥心や傷ついた気持ちに配慮し、トイレ等の人目につかない場所に対応している	3.26
4	自分の感覚で排泄を知らせることができる子どもに対しては、子どもの行きたいタイミングでトイレに行かせるようにしている	3.32
5	子どもが友だちをたたく等、良くないことをした際、必要以上に責めないようにしている	3.26
6	子どもが保育者に話しかけた際には、できるだけ耳を傾け、すぐに対応できない状況でも、後から話しかかったことを聞くようにしている	3.32
7	子どもに対し、他者と比較したり否定的な声掛けをしないようにしている	3.26
8	食事の際には子どもが好む順番で食べられるように配膳などの配慮をし、食べる意欲を育む環境づくりに努めている	3
9	降園時、日中の様子を保護者に伝える際には、子どもの自尊心を傷つけないよう保護者が気まずい思いをしないように配慮をしている	3.28
10	子ども同士のトラブルが起きた際、保育者の一方的な考えで判断をするのではなく、双方の言い分を聞くようにしている	3.37
2	子どもの意見を尊重するかかわり・肯定的な言葉がけ	3.18
1	言葉がけを聞かない子どもに対しても、「〇〇しないなら〇〇できない」など、行動を強要するような声掛けはしないようにしている	3
2	昼食時、ごはんをこぼした子どもをほかの子どもが大勢いる前での指摘せず、声掛けはこぼした子どもにこっそり行っている	3
3	「あなたのせいで〇〇できない」など、自分の仕事を優先して考えるのではなく、子どもの気持ちやその日の状況に配慮したかかわりをしている	3.47
4	子どもの発達や個々の状況に応じて、無理に寝ることは強要せずに、身体を休めることの大切さも伝え、子どもが納得して行動できるような言葉がけをしている	3.26
5	怒鳴るなど、子どもに恐怖心を与えて保育者の指示に従わせるのではなく、子どもが自ら行動できるような言葉がけを心がけている	3.16
3	子どもの人権に配慮したかかわり	3.49
1	子どもの人数チェックをする際は、頭をはたきように数えたりせず、一人ひとりの顔を見ながら丁寧にしかかわるようにしている	3.42
2	子どもの行動を促す際に、腕を引っ張ったりして急かすのではなく、丁寧な言葉がけで、子どもが自ら行動できるようにしている	3.32
3	子どもを注意する際には、叩いたり暴力的な行為で従わせるのではなく、言葉でしっかりと説明するようにしている	3.47
4	午睡時、なかなか眠らない子どもに対して強引に押さえつけたり強く布団を叩いたりせず、そっと手を添えるなど子どもが安心できるかかわりをしている	3.63
5	保育者の言うことを聞かない子どもに対して、廊下に立たせるなど罰を与えるのではなく、具体的に分かりやすい言葉がけを行っている	3.63
4	一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮したかかわり	3.22
1	降園時、お迎えが遅くなる子どもに対して、子どもの気持ちに寄り添った、温かい言葉がけを行っている。（「大丈夫だよ、先生と一緒に待っていようね」等）	3.22
2	子どもや家庭の置かれている現状はさまざまということを理解し、保護者を否定するようなことは、子どもに対して伝えないようにしている	3.37
3	一人ひとりの保護者の状況をふまえ、保護者に対しても否定的な言葉がけはせず、保護者の養育力の向上につながるようなかかわりを心がけている	3.18
4	子どもたちの家庭の経済状況や環境の違いを理解し、子どもの気持ちに配慮した問いかけを心がけている	3.11
5	平等なかかわり	3.44
1	特定の子どものだけに挨拶をするのではなく、どの子どもに対しても、一人ひとり顔をみて挨拶している	3.58
2	「男の子だから」「女の子だから」と性別を理由に注意をしないようにしている	3.37
3	昼食時、保育者の感覚で配膳の量を決めずに、「少なくしてほしい」など自分の意見を言えるよう、「今日の給食は食べられそうかな？」と声掛けをしている	3.33
4	いつも同じ子どものそばにつくなど、特定の子どものばかりを極端にひいきせず、平等に対応している	3.47